

平成29年度「遊びのプログラム等に関する専門委員会」について

1. 平成29年度における取組

- 平成29年度においても、『児童館等における「遊びのプログラム」の開発・普及に係る調査研究業務』を民間団体に業務委託し、引き続き、遊びのプログラムの開発・普及を行っている。
- また、地域の児童館等の果たすべき機能及び役割について、より深く検討を行うためのワーキンググループを設置し、専門委員会と併行して、今後の地域の児童館のあり方とともに「児童館ガイドライン」の項目・内容の見直しを検討する。

2. スケジュール(予定)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
遊びのプログラム等に関する専門委員会	遊びのプログラムの開発・普及								・平成28年度遊びのプログラム実施児童館の取り組みに関する分析・検証について ・遊びのプログラムの評価指標の検討について(案)		モデル事業の経過報告等について(案)		モデル事業の報告等について(案)
	児童館の機能及び役割の検討							【第10回】 ●月●日 ・「調査研究」結果の報告について ・今後の地域の児童館等のあり方の検討について ・児童館GL見直しの方向性について(案)	●月●日 第1回ワーキング WGの設置背景・目的等 ・今後の児童館のあり方検討	【第11回】 ●月●日 児童館GL見直しに関する論点整理と具体的項目の検討について(案)	●月●日 第2回ワーキング	【第12回】 ●月●日 児童館GL見直し案のまとめについて(案)	
モデル事業	競争入札 → 事業者契約 設置 委員会	全国児童館でのプログラム普及・マニュアル作成											報告書
調査研究		平成29年度子ども・子育て支援推進調査研究 ・「児童厚生員の処遇や資格の現状と課題に関する調査研究」 ・「児童館を中心とした社会的ニーズへの対応及び必要なネットワーク構築に関する調査研究」											報告書

今後の地域の児童館等のあり方検討ワーキンググループの設置について

1. 設置の趣旨

「児童館ガイドライン」が平成23年に定められ5年が経過し、この間、これまで先駆的な遊びのプログラム(約500種類)を開発し、全国の児童館等に情報提供するなどの役割を果たしてきた「こどもの城」が平成27年3月末に完全閉館したことや、子どもの貧困、児童虐待、中高生の居場所確保等新たな問題への対応など児童館を取り巻く環境が変化してきており、ガイドラインの見直しなど今後の地域の児童館等のあり方を検討する必要がある。今後の地域の児童館等のあり方を検討し、児童館運営の指針となる「児童館ガイドライン」の見直しなどを専門的な見地から検討を行うため、ワーキンググループを設置する。

2. 構成等

- (1)ワーキンググループの構成員は、本委員会の委員及び外部有識者等から委員長が指名する。
- (2)ワーキンググループの検討状況を本委員会に随時報告するとともに、検討結果を本委員会に報告する。
- (3)ワーキンググループは、委員長が必要があると認めるときは、関係者の参加を求めることができる。
- (4)ワーキンググループの庶務は、厚生労働省子ども家庭局子育て支援課において処理する。

3. 主な検討事項

- (1)今後の地域の児童館等のあり方について
- (2)「児童館ガイドライン」の見直し
- (3)その他

4. その他

会議は、原則公開とする。

5. ワーキンググループ構成員名簿

【専門委員】

氏名	所属・役職
植木 信一	新潟県立大学 人間生活学部子ども学科教授
中川 一良	社会福祉法人健光園 京都市北白川児童館館長

【外部有識者】

氏名	所属・役職
安部 芳絵	工学院大学 教育推進機構教職課程科准教授
斉藤 朋行	東久留米市中央児童館館長
柳澤 邦夫	栃木県上三川町立上三川小学校校長